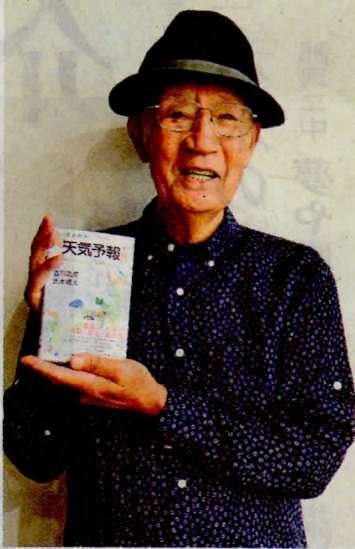


県内総合

天気予報の舞台裏解説

気象庁OBで鹿嶋市在住の古川武彦さん(81)が「図解・天気予報入門」(講談社ブルーバックス)を刊行した。近年の気象現象や天気予報の舞台裏を解説した一冊で、古川さんは「自然を理解し、社会活動に生かしてほしい」と語る。

同書は、理科教科書の編集に携わる大木勇人さんとの共著。約10年前に大木さんと刊行した「図解・気象学入門」の姉妹本として、2年前から執筆に取り組んだ。古川さんは、気象庁予報課長や札幌管区気象台長などを務めた。現在は、気象情報を発信するサイト「気象コンパス」の運営や同市の生涯学習団体「かしま灘楽習塾」で気象学の講座を担当している。



気象庁OB 鹿嶋の古川さん出版

同書では、2019年の台風15号、19号など近年の気象災害を天気図や気象衛星画像を用いて解説。また、地方気象台や気象観測システムのアメダスなどで行う観測についても説明し、日常生活で目にする天気予報が、どんなデータを根拠にしているのかを紹介している。

このほか、コンピューターによる数値予報などの仕組みにも注目。中等教育で教える物理法則を交え、計算方法を解説した。古川さんは、近年見られる台風の強大化や線状降水帯の多発を踏まえ、「住民主体で気象学を学び、犠牲が出るような災害に備えてほしい」と訴えている。(松浦かえで)

「図解・天気予報入門」を執筆した古川武彦さん。鹿嶋市津賀